

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09010050

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 (補助対象) ・事業費 102,000千円 ・補助率 55% ・事業量 用水路 一式、圃場配管 2箇所 ・事業期間 平成24年度～平成31年度 (補助対象外) ・計画樹立～平成23年度 ・事業費 1,607千円
基本施策	1 農業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 土地基盤の充実	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	団体営かんがい排水事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成28年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	事業効果の実証		#N/A	
事業目標	受益農家への普及PR	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	無	
住民協働		関係個別計画名	有 農業農村整備事業管理計画	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	・管路工 L=3,650m ・末端散水施設 2式	地質調査 一式 7,000千円 管路工 L=1,200m 14,000千円	管路工 L=1,500m	管路工 L=693m		管路工 L=339m	
	事業費(千円)	68,732	21,000	21,000	12,044	0	14,688
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	37,956	11,550	11,550	6,624		8,232
	地方債	21,100	6,300	9,400	5,400		
	その他	0					
実 績 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	36,725	11,030	10,922	6,624		8,149
	地方債	20,600	6,300	8,900	5,400		
	その他	0					
	一般財源	9,676	3,150	50	20		6,456
	事業費(千円)	67,247	20,253	19,859	12,319	0	14,816
関 連 事 項	特定財源の名称 団体営かんがい排水事業 補助金 起債(過疎対策)	【評価・実績】	(実施内容等) 調査設計、管路工	(実施内容等) 管路工、用地補償	(実施内容等) 管路工、用地補償	(実施内容等)	(実施内容等) 管路工、用地補償
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-休止	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	管路工 L=1,200m	管路工 L=1,500m	管路工 L=950m		管路工 L=339m
	第6期計画への継続 (継続無し)	年度達成率	96%	95%	102%	#DIV/0!	101%
		全体達成率	29%	58%	76%	76%	98%
	備考欄						

事業名	団体営かんがい排水事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	農地整備係長	苫米地 幸二

様式1
平成29年度実施
平成30年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	団体営かんがい排水事業受益者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	飼料作物の干ばつ被害の影響	
【抱える課題やニーズは】	干ばつによる草地の被害及び生育不良	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	畑地かんがい施設の導入による粗飼料の品質・収量の高位安定化	① 管路布設	目標年度	平成29年度
			目標値	339 m
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	粗飼料の品質・収量高位安定化により酪農経営の収益向上を図る	② 用地補償	実績値	339 m
			達成度	100.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	配水管布設	工事を発注し、配水管路の整備を行った。		
	用地補償	工事施工に伴う立毛補償の実施及び土地使用貸借契約を締結した。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	国営事業の関連事業として位置付けられている事業であり、干ばつによる草地被害等を防ぎ、粗飼料の品質・収量高位安定化を図るためには、末端までの畑地かんがい施設の整備が必要である。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	計画どおり畑地かんがい施設の整備を行うことができています。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	本年度から新規補助事業を活用し、年度ごとの計画どおり進められていることから、効率的と判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	利用にあたっては、施設利用者から利用料を徴収するものであり、受益者負担があることから公平と判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
干ばつ等による草地被害を防ぎ、粗飼料等の高位安定を図るため、管路布設を進めた。酪農経営の収益向上を図るため、今後も計画どおり進める必要がある。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
酪農経営の安定化を図るための事業であり、末端までの施設整備を図るため、今後も引き続き継続して進める必要がある。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止